

しょう。旅費がいくら、汽車賃がいくら、髪結費がいくら、下駄が幾ら、足袋がいくら、靴賃がいくら、ピン付や油がいくら、途中で食った菓子代まで入って居る行くまでの内には皆無くなつて先方へ行つた時は一文も残らない。それを讀まされた時は私は非常に憤慨した。併し之は一ツの契機になつて居る。此等の密着屋屋に向つては、さうしても今日の資本主義から打破してかゝらねばならぬ。  
 諸君、諸君は安全にして中流の生活をし、居るから分らぬが、私共の様に朝から晩まで、此階級の人を住んで居るに、恐ろしい悪魔の手が、片づ端から擴んで行く折角で、一生懸命に育つた子供が、十六になつたならば朝鮮に賣られる。某の子供は何處へ行く、殆ど、私は、此等の子供を罵へますが、十年の内には三千羽ばかり逃がしました。であるから非常に憤慨する。モウ一度其嬢を己の懐に返して呉れ、私共の所から嬢を盗んだものがある。それは所謂墮落した所の破産流の連中でありませう。此等の者が公然其權力を以て或時は市議員を出して居る、大阪にでもあります。神戸にもある。神戸の四十八人の市議員の中には、郵屋の亭主が二

人居たことがありません。さうするのですか、之を、...此階級した所の政治をそのまゝ受けて半氣で居る所の所謂日本帝國の忠良なる臣民諸君、此間達つた所の政治に向つて私共さうしても根本的の改造を施さなくてはならぬのであります。即ち婦人制度の根本的の破壊を、正義人道に依つて諸君が起つて、之に一つの制裁を加へなくちゃならぬ。

**ドクダミ**

猶ほ可哀想なのは是等職業婦人、三私は言ふ、此可哀想な婦人達は一體これだけ客を取るか、...諸君に逆も想像は出来ませぬ、私は事實を話します。私が茲に持つて来た統計があります。

それは或縣の本當の語、今年の二月十一日にあつた事です或る縣の或る町の遊廓に於て二十數名の娼妓が急がしく客を取りました。其中で最も可哀想なものは下樓のハル子、云ふのであります。不幸にして僕の妻と同じ名前のものであります此婦人は今年の二月十一日に二十一人の客を取つて居る。

米國の有名なるキーランドに申しまする人が、米國に於ける此種職業、(米國に